

令和3年度スクーリングシラバス

| スクーリングコード | 科目名 (単位) | 履修方法 |
|----------------|--|----------|
| | 保育内容 (表現) (2 単位) | |
| 担当教員名 | 佐藤 恵美子 | 会場 長岡 |
| 開講日 | 令和3年5月13日(水)～7月22日(木) | |
| 学生への メッセージ | <p style="text-align: center;">＜学生に期待される学習態度＞</p> <p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講性は下記の条件を守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講してください。学生には積極的な態度で授業に参加することが期待されています。 2. 自ら進んで教員に質問してください。理解できないことをそのまま放っておくことはしないでください。 3. 授業中は欠席、遅刻、早退、無断退出をしないでください。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られないと判断された場合、スクーリング修了試験の答案内容如何に関わらず、不合格となります。 5. 授業中、私語は絶対にしないでください。 6. 授業中に居眠りはしないでください。 7. 授業中は携帯電話・PHSの電源を切ってください。 <p style="text-align: center;">＜教員は次のことを実行します＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 2. 受講者全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語は分かりやすく説明します。 3. 一方通行の講義だけを行なうのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作ります。 4. 遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断外出、その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 | |
| 指定教科書 以外の教材 | <p>『保育所保育指針』 日本保育協会</p> <p>『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館</p> | |

| 講義日程 | 授 業 内 容 |
|-----------------------------|--|
| 1 回 | 領域「表現」の意味について。その「ねらい」と「内容」を正確に理解する。 |
| 2 回 | 領域「表現」の歴史的変遷について学ぶ。 |
| 3 回 | 乳幼児の発達と「表現」の考え方について理解する。 |
| 4 回 | 現代社会における子ども取り巻く環境の問題点を踏まえながら、表現を育てる保育者の役割について考察する。 |
| 5 回 | 子どもの表現の特徴を捉え、年齢に沿った発達を学ぶ。 |
| 6 回 | 表現活動の展開と援助について具体的事例から考察し学ぶ。 |
| 7 回 | 領域「表現」のねらいを参考に、指導案を立案する。（実践演習） |
| 8 回 | 保育現場における「子どもの表現を育てる保育」とは（実践演習） |
| 9 回 | 音や音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する。 |
| 10 回 | 造形活動に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する。 |
| 11 回 | スクーリング修了試験 |
| スクーリング 修了試験設題 | 1～3 の設題の中から 1 題を選び、1000～1200 字程度で述べよ。 1. 領域「表現」の変遷について 2. 表現者としての保育者について 3. 現代社会で必要となる保育者の具体的な役割や指導方法について |
| 面接授業 (スクーリング) 評価・採点基準 | 1. スクーリング修了試験 50% 2. 授業参加態度（意欲・積極性、提出物等） 50% 総合点 100 点 ※授業は全部出席してください。遅刻・早退・無断退出は 1 回につき 10 点減点とします。 |

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | |
|--|-------------------------|---|--------------------------------------|
| 授業科目名 リズム遊び | | 授業の種類 (講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ 実習) | |
| 授業担当者 大塚 三聖 | 実務経験 | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。 | |
| 授業の回数 15回 | 時間数 (単位数) 30時間 (1単位) | 配当学年・時期 1年・前期 | (<input type="checkbox"/> 必修 ・ 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンスを考え、動きに変化を付けて表現や変化のあるひとまとまりの表現ができるようになる。 ・仲間の表現を認め合いながら、意見を出し合い、協調して一つの作品を創り上げることができるようになる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生主体による踊る楽しさや喜びを体験し、表現することの可能性を発見すると共に「踊る」「創る」「観る」という活動を通して、指導・実践能力を養う。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンスを考える発想力を養えるようになる。 ・企画力を養えるようになる。 ・発表会(学園祭)で発表できるようになる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(オリテ) 2. 役割・曲決め・衣装決め 3. ビデオ学習 4. ビデオ学習 5. ビデオ学習 6. ビデオ学習 7. デモンストレーション学習 8. デモンストレーション学習 9. デモンストレーション学習 10. デモンストレーション学習 11. デモンストレーション学習 12. デモンストレーション学習 13. リハーサル学習 14. リハーサル学習 15. 発表 (試験) 発表(学園祭) | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | なし | | |

| | |
|---------------|---|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none">・以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、ダンスの完成度を評価する。2. 平常点(15%) 授業への参加状況では発言回数・協調性等を評価する。 |
|---------------|---|

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | | |
|--|-----------------------|--|--|--|
| 授業科目名 教育原理 | | 授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習) | | |
| 授業担当者 大塚 三聖 | | 実務経験 | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。 | |
| 授業の回数 8回 | 時間数(単位数) 12時間(2単位) | 配当学年・時期 1年・前期 | (<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択) | |
| [授業の目的・ねらい] 教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、我が国の教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的とする。 | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で教育について考える力を養う。 | | | | |
| [授業終了時の達成課題(到達目標)] 教育という言葉の意味を人間の特性、発達、人間形成という観点から捉え、学校教育の歴史や、様々な教育者の思想についてや、我が国の教育政策や学習指導要領の動向についてなども理解する。 | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合) | | | | |
| 1. 人間の特性、発達、人間形成、教育と遺伝と環境について 2. 教育の歴史と我が国の教育政策について 3. 教育の基本原理について 4. 教育の制度と思想について 5. 子どもの発達段階に応じた教育的諸課題と発達段階ごとの教育的配慮について 6. 家庭や地域社会が子どもの育ちに果たす役割について 7. 新学習指導要領の特徴について 8. 現代社会の教育的課題について | | | | |

| | |
|---------------|---|
| [使用テキスト・参考文献] | 『新しい教育原理』 ミネルヴァ書房 『幼稚園教育要領』 文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省 |
| [単位認定の方法及び基準] | ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。 |

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | |
|--|-----------------------|--|---|
| 授業科目名 教育実習指導（初等）Ⅰ | | 授業の種類（ 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ 実習 ） | |
| 授業担当者 若杉 諭美 | | 実務経験 私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。 | |
| 授業の回数 11回 | 時間数（単位数） 20時間（2単位） | 配当学年・時期 1年・前期 | （ <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 ） |
| <p>[授業の目的・ねらい] 教育実習のねらいを達成するために必要な態度や知識、技能の習得を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 教育実習の基礎知識や心構えを身に付けるために、講義、演習、事例検討を通して学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育実習の目的、心構えがわかる。 ・ 教育実習における記録や指導案立案の方法がわかる。 ・ 幼児理解、教材研究、指導の方法がわかる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義 2. 子ども理解と実態の把握 3. 日誌を書く必要性と日誌の書き方 4. 指導案に必要な事項 5. 指導案作成の実践 6. 模擬保育・授業の実施 7. 模擬保育・授業の実施 8. 模擬保育・授業の実施 9. 実習に必要な心構えとマナー 10. 自己理解と実習に向けての課題 11. 試験 | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | | 幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック（大学図書出版） | |
| [単位認定の方法及び基準] | | 授業態度 50% 試験 50% 総合点 100% | |

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | |
|---|-----------------------|--|---|
| 授業科目名 教育法規 | | 授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習) | |
| 授業担当者 大塚 三聖 | 実務経験 | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。 | |
| 授業の回数 8回 | 時間数(単位数) 20時間(2単位) | 配当学年・時期 1年・前期 | (<input checked="" type="checkbox"/> 必修) ・ 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい] 教育法規に関する基礎的な知識を身につけることを、その知識を用いて学校における法的な諸問題に対応できるようになることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 様々な事例検討などから教育法規についての基礎的な知識を学び身につけていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明できる。 ・ 必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 ・ 学校における様々な課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規を学ぶ意義と、教育法規の体系と構造について 2. 日本国憲法の教育に関する規定、教育基本法、学校教育法などについて 3. 憲法解釈上の義務教育について 4. 公立学校、私立学校における宗教教育や宗教活動についての法の規定 5. 学齢児童又は学齢生徒に対する懲戒について 6. 授業中の担任の過失による事故の法的責任について 7. 教科書の使用義務と補助教材についての法の規定について 8. 体罰と事実行為の懲戒と法的責任について | | | |

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| [使用テキスト・参考文献] | 山本豊『有権解釈に重きを置いた 教育法規 第三版』 学校図書 |
| [単位認定の方法及び基準] | レポート評価による |

授 業 概 要

(幼稚園専攻科)

| | | | |
|--|---|--|--|
| 授業科目名 保育内容 (人間関係) | | 授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習) | |
| 授業担当者 羽瀧 めぐみ | 実務経験 | 公立・私立保育園、認定こども園にて0～4歳の保育、一時保育、子育て支援、保護者支援。こども発達相談室にて発達支援・相談業務などに従事した。 | |
| 授業の回数 8回 | 時間数 (単位数) 20時間 (単位) | 配当学年・時期 1年 ・前期 | (<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい] 保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とかかわりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの発達に沿った人間関係を育む支援や援助、活動を構想できるようになることを目指す。</p> | | | |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会が子どもの人間関係にどのような影響を及ぼしているのかを捉える。 2. 地域社会で相互補完的関係にある幼稚園の役割を述べる。 3. 社会的存在としての人間・子どもの意味と、そのために求められる資質・能力について考える。 4. 仲間から集団が形成される過程で、保護者が留意する点について理解する。 5. ねらいと内容の意味を正確に捉えて、そこで重視されている点についてまとめる。 6. 自己表現、自己制御、他者受容、葛藤体験の意味を捉えて、その際に言葉が果たす役割について考察する。 7. 子どもの人とかかわる力を育成する際の保育者の指導・援助の留意点について考える。 8. 子ども同士の関わりの特徴を捉えて、園での望ましい活動の内容についてまとめる。 | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | コンパス 保育内容人間関係 建帛社 文部科学省 幼稚園教育要領 フレーベル館 | | |
| [単位認定の方法及び基準] | レポート評価による。 | | |

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | |
|---|-----------------------|--|---|
| 授業科目名 幼児体育 | | 授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習) | |
| 授業担当者 大塚 三聖 | 実務経験 | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。 | |
| 授業の回数 11回 | 時間数(単位数) 30時間(2単位) | 配当学年・時期 1年・前期 | (<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子ども達の運動遊びや身体表現の場において、言葉による指導・助言のみに頼るのではなく、保育者自身が視覚教材となり得るようなしぐさを身につけることを理解し、身体運動に関する基本的な知識の理解を深める。また、安全管理や安全教育に必要な知識を学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>身体運動に必要な基本的な知識の理解や安全管理や安全教育に必要な知識を深めるとともに、遊びの要素を取り入れながら幼児体育で取り扱う運動遊び等に関する教材研究を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者自身が視覚教材となれるようなしぐさや動作を理解する。 ・ 身体運動に関する基本的な知識、幼児期に体得すべき基礎的動作・基本的運動を理解する。 ・ 運動遊びにおける安全管理および安全教育に必要な知識を理解する。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児体育の必要性、スキヤモンの発育曲線、幼児期から児童期のあそびとその効果 2. 幼児期の運動遊び、安全管理や緊急時の対応について 3. 伝承遊びとその効果、縄遊びとその効果と注意点 4. 伝承遊び、縄跳び 5. 鉄棒・跳び箱・マット遊びの効果と注意点など 6. 鉄棒・跳び箱、マット遊びの補助など 7. リズム運動の効果について 8. 創作リズム体操① 9. 創作リズム体操② | | | |

| | |
|---------------|---|
| 10. 創作リズム体操発表 | |
| 11. 試験 | |
| [使用テキスト・参考文献] | 井上勝子『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社 |
| [単位認定の方法及び基準] | 試験：総合の 50% 授業中の態度、積極性：総合の 50% 総合点：100 点 |

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | |
|--|-----------------------|--|--|
| 授業科目名 幼児理解 | | 授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習) | |
| 授業担当者 若杉 諭美 | 実務経験 | 私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。 | |
| 授業の回数 8回 | 時間数(単位数) 20時間(2単位) | 配当学年・時期 1年・前期 | (<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい] 幼稚園、保育所、認定こども園がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて、その意義や必要性を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成方法を扱う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領等の指針や保育所保育指針を基準として各園において編成される・全体的な計画・教育課程等について、その意義や編成の方法を理解できる。 ・ 各園の実情に合わせてながら、創意工夫し、園と地域との連携の意義や地域との共同の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解できる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども発達の連続性及び保育者間の共通認識とは 2. 地域や家族との連携、小・中学校との連携とは 3. 幼児の姿をより深くとらえるための保育の姿勢について 4. 遊びを通しての総合的指導について 5. 保育形態について 6. 行事を生かした保育の展開について 7. 地域や小学校との連携が生かされる保育について 8. 保育者に求められる発達の理解について | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | 教育課程論 (光生館) | | |
| [単位認定の方法及び基準] | レポート評価による。 | | |